



東北大学



2011（平成23）年9月9日

報道機関 各位

東北大学大学院経済学研究科 震災復興研究センター
財団法人経和会記念財団

**東北経済の復興に関するシナリオ・プランニングの実施と
経和会記念財団創設40周年記念シンポジウムでの報告**

本年3月11日の東北地方太平洋沖地震を被災地・仙台で経験し、東北大学大学院経済学研究科は2011年度から震災復興研究センターを設置しました。本センターは東北大学災害復興新生研究機構の一員として、東北地域の諸大学、東北経済連合会、東北活性化研究センター、東北経済産業局、中小企業基盤整備機構、県・市町村等との連携・協力のもと、震災からの地域復興に向けた調査研究を開始しています。

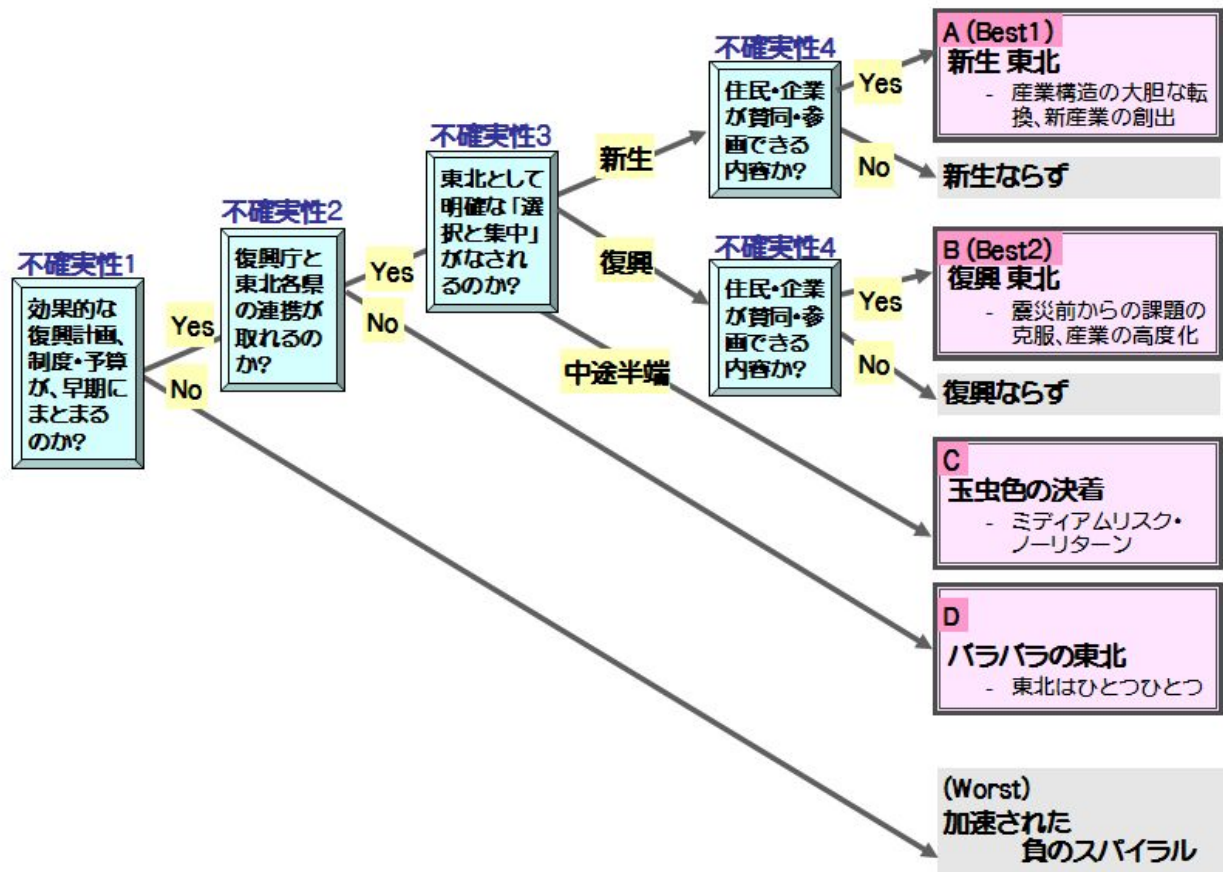
特に「地域産業復興調査研究プロジェクト」では、在仙・県内大学を中心に多様な分野の研究者の参加を得て、1)産業、2)金融ビジネスインフラ、3)人材ビジネスインフラ、4)地域社会、5)マクロ経済把握の5分科会を設置して調査研究を進めるとともに、中長期的な東北地域の産業再生、経済復興のビジョン策定に取り組んでいます。

この度、株式会社グリーンフィールド コンサルティングの協力を得て、「2021年、東北経済はどのように復興を遂げているか」をテーマとするシナリオ・プランニングのワークショップを実施しました。復興の行く末を大きく左右するであろう不確実性を見つけ出し、「起こりうる未来」として最悪な「加速された負のスパイラル」から最も望ましい将来までの7つのシナリオを想定しました。このうち、政策提言のための検討材料として有効と考えられるベスト・シナリオ1「新生 東北」、ベスト・シナリオ2「復興 東北」、不確実性を乗り越えられない2つのシナリオ「玉虫色の決着」、「バラバラの東北」の4つについて、詳細な検討を加えています。

各府省によるインフラ復旧の事業計画と工程表はこの8月末に国の復興対策本部から公表されました。しかし、震災から半年が過ぎても産業復興の方向性は未だに明確にはなっていません。震災復興研究センターでは今後さらに検討を進め、より良き復興・新生を実現し、望ましくない将来を回避するための政策提言の具体化を進めて行きます。

研究成果及び提言内容の詳細は、経済学研究科・経済学部と同窓会である財団法人経和会記念財団の創設40周年を記念して、来る10月1日に開催するシンポジウムにおいて、皆様にお伝えする予定です。「東日本大震災からの地域経済復興への提言 ―被災地の大学として何を学び、伝え、創るのか―」をテーマに議論を進め、今後の政策的課題と東北地域の未来を考える場にしたいと考えています。皆様の積極的なご参加を歓迎致します。

シナリオ構造図：2021 年、東北経済はどのように復興を遂げているか？



- ・ 3 つの大きな不確実性と分岐後の場合分けにより、7 パターンのシナリオが導出された
- ・ 7 パターンのうち、政策提言を検討するための材料として有効と判断した 4 シナリオを詳細に検討している
- ・ 不確実性 4 がそれぞれ「No」に進むケースは、不確実性 3 の検討を通じて、回避可能であると判断した

地域産業復興調査研究シンポジウムの開催概要

主題：「東日本大震災からの地域経済復興への提言 ―被災地の大学として何を学び、伝え、創るのか―」

日時： 2011 年 10 月 1 日（土） 13：00～17：50

場所： 東北大学経済学部・第 3 講義室（川内南キャンパス）
仙台市青葉区川内 27-1

共催： 財団法人経和会記念財団（創設 40 周年記念）

詳細は別紙案内を参照願います。

（お問い合わせ先） sympo2011@econ.tohoku.ac.jp

東北大学大学院経済学研究科 震災復興研究センター長

増田 聡（電話番号 022-795-6316）

東北大学大学院経済学研究科 地域イノベーション研究センター長

藤本 雅彦（電話番号 022-217-6265）